



ごうちゃんねる (GO-CHANNEL)

2023/04/01

あっさり黙示録 #57
艱難時代の終わりと子羊の婚礼
黙示録 19章

東住吉キリスト集会 高原 剛一郎 氏



お元気ですか。高原剛一郎です。今日は2週間ぶりの**あっさり黙示録** 57 回目です。**黙示録 19章**。今日見るのは、艱難時代終了の直前に、天国で行われるビッグイベントに関する預言です。

黙示録 19章

6 また私は、大群衆の声のような、大水のとどろきのような、激しい雷鳴のようなものがこう言うのを聞いた。「ハレルヤ。私たちの神である主、全能者が王とられた。」

〇〇のようなという言葉が 3 回出て来ました。
大群衆の声のような。この声は前回見たように殉教者たちの声です。
艱難時代に殉教して、魂が天に行っている人たちです。

大水のとどろきのような、激しい雷鳴のような。この表現は天にいる御使いたち。特に、セラフィムは雷のような声をしていただけと書いてありました。

この段階では、天にいるものは人間だろうが御使いだろうが、みな心を一つにして声を合わせて、神に向かって「ハレルヤ！」と賛美の大声を上げているのです。このハレルヤコーラスは 4 回あるんですね。3 回分は既に解説しました。4 回目のハレルヤは、特に大きなハレルヤであったのではないかと。というのは、理由が書いてあるんです。

7 私たちは喜び楽しみ、神をほめたたえよう。子羊の婚礼の時に来て、花嫁は用意ができたのだから。

子羊の婚礼。天で結婚式が行われると言うんです。子羊とは誰でしょう。イエス・キリストです。イエスは別の箇所では「**見よ、世の罪を取り除く神の子羊**」と呼ばれたんですね。子羊が罪のいけにえとして献げられたように、救い主イエス・キリストは私たちの罪の贖いの代価として子羊となってくださった。子羊の婚礼はキリストの結婚式のことです。

では、**花嫁**は誰でしょう。教会です。教会は教会堂／建物のことではありません。恵みの時代にキリストを信じ救われた人たち。艱難時代に入る前に携挙されたクリスチャンたち。これが教会に所属している信仰者たちです。彼らとイエス・キリストの結婚式が天で行われるんですね。いつ？ 艱難時代終了の直前。だから、ハレルヤなんですよ。

これで地上のサタンの反逆が終わる。その直前に、天で大いなる喜びの式が行われる。それは子羊の結婚式である。

ところで、書いているヨハネはユダヤ人。イエス・キリストも人としてはユダヤ人。聖書のバックグラウンドはユダヤの社会なんです。ユダヤ社会の中で、だれもが分かっていることを背景にして語られているんですね。そこで、子羊の婚礼を、当時のユダヤ人の結婚式を下地にして考えてみましょう。

当時のユダヤ人の結婚式は5つのステップを踏みました。

①婚約

当時は自由恋愛ではありません。花婿の父が花嫁の父と交渉して結婚が決まります。花婿の父と花嫁の父は、どのタイミングで婚約の約束を取り交わすのか。早い場合は花婿・花嫁がまだ子供の時、あるいは赤ちゃんの時に、「君と俺は親友だから、俺の息子が君の娘を娶るように、もう決めておこうよ」というように。これが婚約です。この婚約が正式なもの・有効であるための条件は、花婿の父側が花嫁料を払うこと。これを頭に入れておいてください。

②準備期間

結婚式までに、花婿も花嫁も準備しなければなりません。花嫁は自分自身を磨く。料理や家庭の収め方など色んなことを学ぶんですね。お母さんから口移しで学ぶんじゃないんですか。

花婿は花嫁と住む新居を準備しなければなりません。これは非常にお金が掛かるんですね。新居が準備できるまで結婚式はありません。なので、結婚式までとっても長い期間を経ることもしばしばでした。

③出迎え

新居が完成したら花婿が花嫁の家まで迎えに行き、花嫁を伴って新居に移動します。1世紀から2世紀の、ガリラヤに住んでいたユダヤ人の習慣を記しているものが発見されたそうです。それによると、花婿が花嫁を迎えに行った時、花嫁は花婿の後ろを歩いてついて行くのではなく、花婿が準備したお神輿のようなものに乗る。すなわち、空中に浮かべられた状態で、花婿が準備した新居に移動して行くんです。これは、携拳を非常にうまく説明しているように思うんですね。

④結婚式

結婚式は新居の前で行われます。多くの人を招くのではなく、極々内輪の身内で行われる式です。

⑤婚宴

結婚式（婚礼）が終わると婚宴（披露宴／レセプション／宴会）。これは、長い場合は1週間ほど続いたそうです。ヨハネの福音書にカナの結婚式があります。披露宴があんまり長く続いたためか、ぶどう酒が途中で切れてしまうアクシデントが起きました。

しかし、花婿に恥をかかせないために、ナザレのイエスが水をぶどう酒に変えたという記事です。

①婚約 ②準備期間 ③出迎え ④結婚式 ⑤婚宴。

婚約は人がイエス・キリストを信じること。それは、イエスと婚約関係に入ったようなものなんですね。婚約の契約が有効になるためには、花嫁料が払われなければなりません。その花嫁料は、神がご自分の御子の価で払ってくださったんです。

私たちは救われた後／クリスチャンになった後、地上に置かれていますが、時に試練や悲しい目・辛い目に遭ったりしますね。なぜこんな目に遭うんだろう。準備なんです。信仰者として十分に練られた、整えられた者になるための**準備期間**だということができるでしょう。

イエスが父の家に準備をし終わったら、私たちの新居の整えが終わったら、そのタイミングで花嫁を**迎え**に来られます。これが携挙です。携挙の時、花嫁はみな、まるで神輿に乗せられるみたいに空中まで引き上げられて、新居に移るんですね。

そうして、天に移ってから**結婚式**が行われますが、地上の人々はそれに与ることはできません。天の住民たちだけです。

結婚式の後の**婚宴**（レセプション）は千年王国の前、あるいは千年王国の始まりの時に行われます。それに参加できるのは、艱難時代を通してイエス・キリストを信じた人だけです。婚宴に列席できることは、救われている証しの一つなんですね。

19 御使いは私に、「子羊の婚宴に招かれている者たちは幸いだ、と書き記しなさい」と言い、また「これらは神の真実なことばである」と言った。

地上で行われる子羊の婚宴（レセプション）の招待状をもらうのは、非常に晴れがましく名誉なことですね。お客さんとして列席するのが名誉であるなら、当事者の花嫁としてその場に臨むのは、もっともっと名誉なことではないでしょうか。それを私たちに提供しているのがイエス・キリストの福音なのです。

いかがでしょう。**黙示録**を見ていく時、神が人をどれほど愛し、祝福したいと願っておられるかがよく分かると思います。まだキリストを信じていない方は、ぜひイエス・キリストを救い主として信じてください。

チャンネル登録と〈いいね！〉もよろしくお願ひします。ではまた、ごうちゃんねるでお会いしましょう。皆さん、お元気でいらしてください。さよなら！

☆引用；日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017